

気候システム研究センター

|    |       |       |         |
|----|-------|-------|---------|
| I  | 研究水準  | ..... | 研究 27-2 |
| II | 質の向上度 | ..... | 研究 27-3 |

## I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 1. 研究活動の状況

#### 期待される水準を大きく上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、教員一名当たり年間平均約5件の研究論文を著している。共同研究・受託研究は、年平均17.5件であり、文部科学省特別事業費研究「人・自然・地球共生プロジェクト2002」等において中心的役割を果たしている。研究資金の獲得状況について、年平均8.7億円を10名の専任教員により獲得することなどは、優れた成果であることから、期待される水準を上回ると判断される。

「共同利用・共同研究の実施状況」のうち、共同研究は、年平均21件採択され、情報基盤センターのスーパーコンピュータのリソースの58%を外部研究者に割り当てている。大気海洋結合気候モデルのユーザー数は80名以上に増えている。また、特別教育研究経費「地球気候系の診断に係るバーチャルラボラトリーの形成」プロジェクトにより、国内の連携研究活動を展開していることなどは、優れた成果であることから、期待される水準を上回ると判断される。

「気候モデルの組織的開発と研究成果の発信」のうち、世界トップレベルの次世代の気候モデルは、センターの組織的取組により開発した。気候変動問題について、ウェブサイト、公開講座、サイエンスカフェ、報道への取材協力等により積極的に研究成果を発信したことなどは、優れた成果であることから、期待される水準を上回ると判断される。

特に、「気候モデルの組織的開発と研究成果の発信」について、次世代モデルを組織として開発するとともに、研究成果を積極的に社会に発信しているという点で「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

以上の点について、気候システム研究センターの目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、気候システム研究センターが想定している関係者の「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

### 2. 研究成果の状況

#### 期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、気候モデルの開発等において優れた成果を

上げている。これらは、共同利用・共同研究の成果である。得られた気候モデルとモデリング研究の成果は、温暖化に伴う影響評価に使用されつつあり、関係者から信頼を得ている。4年間で7件の学会賞等を受賞している。これらの状況などは、優れた成果である。

以上の点について、気候システム研究センターの目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、気候システム研究センターが想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

## II 質の向上度

### 1. 質の向上度

#### 相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。